

「東日本大震災」におきまして、被害にあわれた皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々にご遺族の皆様に対し、心よりお悔やみを申し上げます。

一日も早い復旧をお祈りいたします。

NPO法人ノウハウ会会員一同

## 巻頭随想

理事長 石毛 浩

前回の会報第9号の執筆に際し、非日常の時空へのコラムに、私の現役時代の海外勤務を通じて所感した『人間社会の発展には如何に「水」と「教育」が必要であるか』の体験談のうち、特に「水」の必要性と人との係りについて記載させて頂いた。

この度は一方の柱である「教育」について昨年度来、中小企業緊急雇用安定助成金事業、ならびに緊急人材育成・就職支援基金事業、などの委託事業を通じて得た「教育」についての経験をもとに、「教育」についての所感を申し述べたい。

私は、教育者でもなく、これといって教育に携わった経験はないが、はからずもこの度、安定助成事業では講師の派遣を、そして支援基金事業ではノウハウ会研修センターを設立して従業員及び離職者のスキルアップを実施するという「教育」に関しての事業に携わる機会を得た。安定助成事業では企業の従業員を対象に、就職支援基金事業では、離職者を対象にと教育支援の対象者が異なるが、何れも政府の雇用促進施策の一環としての委託事業であり、雇用問題への改善に向け、実施される内容のものである。

平成20年9月のリーマンショック以降、急上昇した完全失業率は、平成21年7月に5.5%とピークを向かえたが、その後徐々に回復基調には入り、23年2月時点では、4.6%と緩やかな回復基調となっており、デフレ傾向にも多少の収まりが出てきたのではと希望のもたれる状況にあったが、この度の3月11日の東日本大震災の影響がどのようになるか、懸念されるところである。

総務省統計局の2月分調査(基本集計)によると、実数的に就業者6,211万人に対し、完全失業者302万人(4.6%~季節調整値)と報告されている。

完全失業者数302万人は、前年同月に比べ22万人(6.8%)の減少となっており、9ヶ月連続の減少傾向にあるという。

かかる傾向が現われている原因の一端には、上記のような様々な失業対策が奏効しているのではと思われる。その対策の一環として「衣食足って礼節を知る」ではないが、従業員ならびに離職者への雇用対策期間を活用しての様々なスキルアップを目的とした教育支援の施策、即ち教育による労働者の質的向上を図る効果は、経済成長を押し上げる大きな効果がある事は事実であり、大変「的」を得た重要な施策であろうかと思う。

ところで、私が現役時の海外勤務中につくづく「教育」の大切さを実感として得ていたがその理由は、特に低開発国といわれる国々へ産業支援の橋渡しのような仕事をしている時に、先ずは目的を共有するために基本となる「知識の共有」が如何に必要かという事を身に沁みて感じさせられた事による。事の原点の事象が知識として共有できないと話が始まらず、そのために時間と労力の浪費が際限なく続いてしまう結果となる。

これ等の経験は、私に「教育とは、人としての尊厳の基本を知らしめることであり、そしてその効果は、人類発展のためのあらゆるものの根幹を築くもの、そして際限のない発展と効果をもたらすものである」という事を示してくれた。

さて話を本筋に戻すが、当ノウハウ会としても声高に雇用問題が唱えられる昨今の雇用対策に、どの様に役立ち得るのかをプロジェクトチームを立ち上げて検討をし、昨年4月度に支援基金事業に対応すべく「ノウハウ会研修センター」を立上げ訓練機関としての国からの認定を受け、受講生の受入れを開始した。

3ヶ月サイクルの短期間での教育カリキュラムではあるが、受講生は20歳代から60歳代の方々

と、その年齢層は大変な巾があり、また受講生の能力の内容、そしてその程度も千差万別で、当初は講師の方々もその対応に大変な苦慮をしての船出となった。

然し、この4月末現在で発足以来ほぼ1年が経過したがその間、3期にわたり約40人程度の卒業生を送り出す事が出来た。

現在、継続しての5月開校がスタートし、さらに8月開校に向けての準備を実施中であるが、回を重ねるごとに「教育をする」という事に対する様々な問題点、反省点などが経験され、常に「より効果あるべき教育の姿は」を目標として改めるべきは改め、継続すべきは継続して、講師の方々も含め切磋琢磨する日々を重ねている状況にある。

この経過した一年の教育に携わった経過を改めて振り返ってみると、教える側教わる側それぞれに人としての誇り、生きている喜びなどを相互に実感し合う場が生れてきたように思う。即ちこれが教育の原点なのではとも思われるので、それらの所感を纏めてみる。

・ 教えられる側として：

「学ぶ有り難さ、その価値が何たるかを感じとっていること」

「人としての生きかたの基本、対応の仕方などを感じとっていること」

「やれば出来るという自信、さらに努力を重ねて前へと感じとっていること」

・ 教える側として：

「自らの経験に更に研鑽を加え、教えることに喜びを感じとっていること」

「教えられる側の成長を喜び、更なる向上心の芽吹きに喜びを感じていること」

「人としての尊厳と喜びが、教育にある事を身を挺して感じ実証していること」

以上

パソコン研修風景



従業員研修状況 1



従業員研修状況 2



## 平成23年NPO法人ノウハウ会 春の散策会（西国街道PART-V）概要 研鑽部会 岡本 正明

平成23年4月5日（火）小春日和の晴天に恵まれ、大勢の参画者を得て、大変有意義な一日を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。その概要を下記します。

### 《伊丹界限編》

＜奈良朝時代の高僧・行基の業績が色濃く残る伊丹毘陽寺・池＞

＜中世戦国時代の摂津の「風雲児」荒木村重と伊丹有岡城跡＞

＜近世日本清酒の発祥地伊丹が育んだ文化の華＞

### 《散策概要》

- 奈良朝時代の高僧・行基の業績を訪ねながらの花見、毘陽池（毘陽寺）の予定
- 伊丹廃寺跡（法隆寺規模の大寺と記録にあれど）発掘調査は十分に出来ていない。
- 平安朝時代の有名な女流歌人和泉式部の歌碑娘小式部内侍の和歌（百人一首第60番）紫式部の娘、大式三位の歌（百人一首58番）の和歌
- 道標「辻の碑」は（西国街道と多田街道の交差点）伊丹が攝津の国の中心部であることを表記している。
- 中世戦国時代の摂津国の「風雲児」荒木村重と伊丹有岡城（惣構の城）
- 荒木村重主従の末路（有岡城）、尼崎城（村欠）、花隈城（村正）、吹田城（村氏）、茨木城（中川）、高槻城（高山右近）・・・
- 荒木村重の菩提寺（黒染寺、荒村寺）
- 本泉寺（日蓮宗の大寺で楠公一族の墓がある）
- 日本清酒の発祥の地（伊丹）で最盛時には70余軒あり（山中鹿之助の長子、新六行元が伊丹の鴻池に住みつき酒造業を始める→後に鴻池家を興す）  
（丹醸・伊丹諸白・創菱・白幸、老松・男山・大手柄・・・）

- 伊丹酒の特徴（麴米、蒸米、水の三段仕込みでふくよかで香しい辛口の酒と云われた）
- 江戸中期元禄時代に東の松尾芭蕉、西の俳諧の奇才上島鬼貫が伊丹の出身で大いにもてはやされた。
- 井原西鶴、頼山陽、篠崎小竹、などの文人、墨客（諸芸百般）伊丹の旦那衆などが集まる「たまり場」が伊丹文化の華を咲かせた。
- 昼食は小西酒造直営のブリュワーリーレストラン「長寿蔵」で酒食を楽しませて頂いた。

### 《概略日程》

〔日時〕：平成23年4月5日（火）AM10時  
〔集合場所〕：JR宝塚・福知山線伊丹駅中央改札口（2階）

〔日程表〕：

- 10：00 JR伊丹駅西口出発
- 10：05 伊丹有岡城跡（荒木村重 夢の跡）
- 10：15 本泉寺（日蓮宗本山→楠公3代墓）
- 10：30 墨染寺（荒木村重菩提寺、上島鬼貫の墓・・・）
- 10：50 荒村寺（同 上）
- 11：05 柿衛文庫（日本三大俳諧コレクション）
- 11：50 酒造蔵見学（岡田家、石橋家）
- 12：20 食事（小西酒造ブリュワーリーレストラン長寿蔵）
- 13：30 バスで毘陽池（約15分観桜）
- 15：00 毘陽寺見学
- 16：30 解散

以上



## エコステージに役立つISO50001 (エネルギーマネジメントシステム規格) 環境部会 篠原 強

環境部会活動においては各企業の環境経営支援としてエコステージ導入支援等については従来通り進めているが、今回はエネルギーマネジメントシステム規格としてISO50001の概要を紹介する。これからはエネルギー効率の向上とこれに関連するパフォーマンスの向上が経営の中心的課題になってくる。したがって環境経営に携わるにはISO50001の学習が必要になってくるであろう。

地球温暖化を中心とした環境問題が年々深刻化する中、国際的には温室効果ガスの排出規制の関わる中長期的な枠組み作りが最大の課題となっている。一方、エネルギー安全保証問題は、世界的に最優先的課題となっている。わが国では改正省エネ法や、東京都の条例によるエネルギーの効率改善を目的とした法令順守又最近の東日本大震災による東北、関東地域での大災害及び計画停電への対応等の規制が強化されてきた。従来になく個別企業に対する省エネ化の実効性が求められている。その法規制のバーをクリアすることは、今や企業にとつての大きな課題の一つである。又「環境とエネルギーの時代」といわれている現代において、自らが関わる環境影響とエネルギーを自らマネジメントし、省エネ化していくことは、企業にとって単に法規制対応という意味合いでなくコストや利益に直接影響する。

従って、当ノウハウ会エコステージ評価機関は対応策として、環境経営評価支援システム(エコステージ)の支援を行なう際に管理ツールとしてISO50001の規格を取り入れ、より有効性を高めて企業に寄与するコンサルテーションを実施していく必要がある。

### 1. ISO50001の目的

- ① 組織のエネルギーパフォーマンスの改善
- ② 温室ガスの排出削減
- ③ エネルギー効率の向上

### 2. 導入メリット

- ① エネルギーコストが削減できる

(省エネ実現、エネルギー効率化)

- ② 適切な省エネ推進(省エネ計画)ができる。

### 3. 規格要求事項の骨格と特徴

- ① 骨格：ISO50001はエネルギー効率やパフォーマンス改善を目的にP/D/C/Aを回転させ継続的改善を図ります。エコステージ規格の運用と同じである。
- ② 特徴：最高経営者の役割と責任がより重要視される(パフォーマンスが重視される)

### 4. 運用方法

- ① エネルギーレビューの実施  
エネルギー使用に関わる施設、設備、機システムを特定し、その使用量を把握、分析する。  
多量な使用量等を管理項目とし、著しいエネルギー使用量を決定する
- ② エネルギーベースラインの設定  
過去のエネルギー消費量の中で適切なデータと期間を決め設定する。
- ③ エネルギーパフォーマンス指標の決定
  - ・今後のエネルギーパフォーマンスを定量的に評価する基準値を(原単位)作成する。
  - ・計画、設計及び調達の実運用は改善の機会を考慮し決定する。
  - ・その他の規格は、エコステージ2とISO14001の規格と同じである。

以上

**材料・加工のロスを明確にし、経営改善に！  
—マテリアルフローコスト会計（MFCA）—  
環境部会 佐藤 伸吾**

ノウハウ会では、環境の認証制度、エコステージ推進の一環として、マテリアルフローコスト会計(MFCA)の企業への導入を推進しています。

これは、ドイツのアウグスブルグの環境経営研究所（IMU）によって開発されたのが原型ですが、経産省の受託を受けて、(株)日本能率協会コンサルティングが制作したものです。

経営者や経営管理者の意思決定に用いる環境管理会計のひとつであり、経営改善ツールです。「環境負荷の低減」や「コスト削減」が狙いです。

今まで、単純に不良品、廃棄物、排出物で、終わっていたものを、そのコストを算出し、見える化し、負の製品コストとして、明確にして、そのコストを減らす事により、経営の改善をはかるものです。

廃棄物は、減らせば、利益が向上する「宝の山」です。

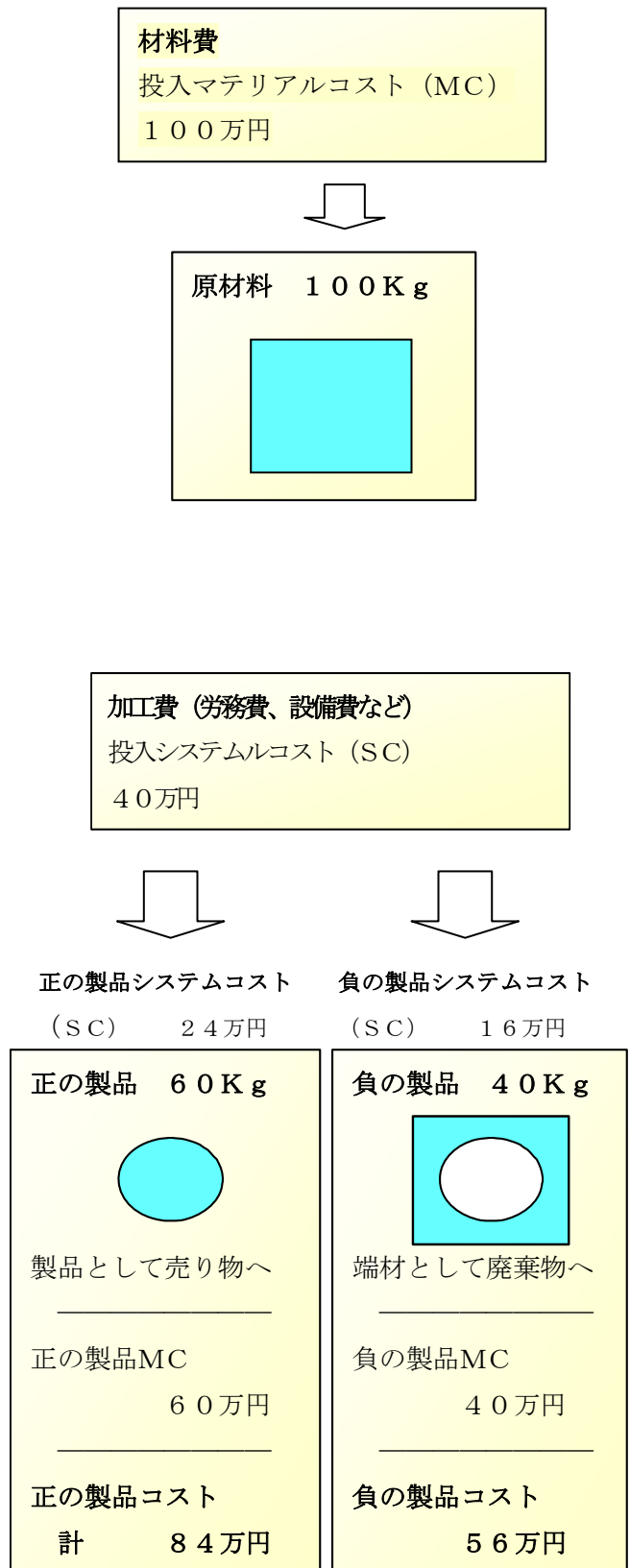
原材料や資材などのマテリアルのフローとストックを物量と金額の両面から測定します。

「マテリアルコスト」として、主材料、補助材料など材料費、「システムコスト」として、労務費、設備償却費、間接労務費など加工費、「エネルギーコスト」として、電力費、燃料費、用役費など、更に「配送・廃棄コスト」として、社内処理コスト、外部処理の委託費などを分類し、管理します。

各加工工程で、投入する材料のマテリアルと発生する不良品、廃棄物、排出物を物量ベースで把握し、金額換算する事でマテリアルロス(不良品、廃棄物、排出物)の経済的価値(ロスコスト)を明らかにし、加工費等も含めた総合的なロスを見える化し、その削減を狙うものです。

MFCAにより、見えなかったロスの問題に気づく事があります。問題解決に当り、「標準作業だから」「人がいないから」「技術的に限界だから」などの理由を乗り越えて、改善に取り組む事が大事です。

◇ マテリアルコスト、システムコストの考え方





## 経営支援部会活動の経過と今後の展望

経営部会 古東 正敏

### ◇ 経営支援部会活動について

経営支援活動は、中小企業等が経営上の様々な問題を解決するに当たっての相談・支援を目的としておりますが、経営課題は広く経営企画、経営革新計画、販路開拓、資金調達、財務管理、人事労務管理、生産管理、生産技術等多岐に亘っております。

昨年から今年にかけての景気は、リーマンショック以降中国はじめ新興国の牽引で、緩やかな回復傾向にありましたが、昨今の円高・デフレ問題、日本国債の格付引下げなど、先行きに不安要因を抱え、不透明感が残り厳しい状況でありました。

そして今回の「東日本大震災」の発生、この世の出来事とは思えない未曾有の大惨事、マグニチュード9.0 観測史上最大の地震と20M 超えの大津波、自然の驚異、破壊力にはなす術もなく家も家財も町も倒壊流出、死者行方不明が26,000人余、避難者は28万人、建物被害が22万戸。そして福島第一原子炉レベル7の最悪事故、あまりにも被害の大きさに言葉がありません。心から哀悼とお見舞いを申し上げる次第です。

さて、これから先、復興はどうなるのか、今後の景気はどうか、工場被災による生産活動の遅れ、サプライチェーンの寸断、部品供給支障の長期化、電力不足、国の復興・災害補償財源、雇用問題、減給、節約、自粛ムード、放射能の人災被害、風評被害等を考えると、気の遠くなるような甚大な被害であり、早晩、復興景気は起るにせよ、経済活動の大幅な遅滞は避けられないと思われます。はたして生産活動が西日本にシフトするのだろうか、生産の遅れは海外調達もありうるが、今後の日本企業の海外シフトは更に加速するものと思われます。

いずれにせよ日本は、この危機を乗り越えて強くならねばならないし、経済の回復、災害復興、被災者支援を図り、明るい社会を取り戻す日が早く来ることを願いたい。

我々の経営支援活動も、今回の困難な状況下での技術支援で企業活力の一助になればとの信念で

日々営業努力を続けてまいりたいと思っています。

### ◇ 平成22～23年の経営支援活動の事例

[経営革新計画認証支援]

- ・J社—プラスチック容器等の大型ブロー成型機の開発に成功したことで、下請け企業からの脱皮を計るべく社内体制を確立。自社の課題を見極め、経営理念、基本方針、経営5ヶ年計画を立て、経営力向上を図り、経営革新計画認証取得に向けて支援をいたしました。
- ・N社—経営革新計画のテーマについては、高度な精度と技術が要求されるレース用バイクのミッションギア開発に成功、自社の製品を搭載したバイクが国内最高峰の鈴鹿サーキット・ロードレース、岡山ロードレースで優勝。これを機に自社ブランドが業界で知れるところとなり、今後はマニア向けから一般ユーザーに拡販するビジネスモデルを確立し経営革新計画認証取得に向けて支援をいたしました。
- ・F社—サメ肉と玄米を利用した蒲鉾の新製品を開発、農水省から水産物安定供給対策推進補助金を取得し国産原料確保実証モデル事業として認定を受けました。栄養バランスに優れ、良質のタンパク質と低カロリーをPRして新販売戦略を立てるよう助言し経営革新計画認証取得の支援をいたしました。

[新事業展開、販路開拓の支援]

- ・S社—枚方市は「七夕伝説」の発祥地であり、自社の金型技術で織姫等のグッズを製作して、「街おこし」地域ブランドとして産業振興に繋げるよう助言致しました。その他置物、キーホルダー、ストラップ、みやげ物等を行政観光課の支援と新販売方式での取り組みを支援。また学校教材としてのジオラマ製作を進言いたしました。
- ・A社—「麴」を用いたアイデア商品の開発について支援。最近「発酵食品」が注目されており、味噌、醤油から発酵するアミノ酸は健康に最も大切なもの、日本

では清酒、酢、焼酎、納豆、漬物、外国でのワイン、ウイスキー、チーズなど。新製品開発は、麴納豆、即席甘酒、麴ゼリー、魚の麴スモーク等、麴レシピの説明書には「美肌、健康、ダイエット」のPRを進言いたしました。

#### [専門技術支援]

- ・ O 社一圧力容器の伸縮継手、補強リングの計算設計についての指導。構図設計では、圧力容器の肉厚を薄くしてコストダウンを図る、また耐圧500Kg/cm、耐熱500度に耐え得るには、FEM解析で計算・設計する方式のあることを詳細指導する。最高圧力、高温等の構造計算に生かされ、企業の技術力向上に繋げることができました。
- ・ S 社一バイオによる生ゴミ処理機を開発。バイオが生ゴミ等を分解して残土が出ないことが特徴で、経済産業省の「ものづくり補助金」が使えないかの相談。  
「ものづくり補助金」は、これから開発したい開発製品が独創的で、かつ高度な技術が対象、すでに開発された製品は対象外。今後、産学連携で開発に取り組むことで支援が受けやすいことを助言しました。なお技術性能の立証が弱いところもあり課題対応について支援をいたしました。

#### ◇ 今後の展望について

今後の経営支援部会の活動については、まず専門技術支援事業を重点に営業展開を図っていきたいと考えています。

ご承知の通り、日本の生きる道は技術立国だと思えます。今や経済はグローバル化し、新興国の追い上げ、中小企業も生産拠点を海外にシフトしている現状、そして今回の大震災を考える時、なんとしても技術の伝承は守らなければならないとの意を強くしました。

然しながら、今回、専門技術支援の活動に取り組んでみて、営業戦略と企業開拓の厳しさ、また技術分野が広範囲であること、人と企業のマッチングの難しさ、対価の取決め等、簡単には

いかない問題が多く、成果を出すには、かなり厳しいと認識をしていますが、皆様の協力を得て力強く進めていきたいと考えています。

将来、この事業展開で取引先企業を増やすことが出来れば、ノウハウ会各事業部の活性化にも役立てていただけるだろうし、基金訓練でのアウトソーシング事業にも繋げていけるものと考えています。

フェロー登録は、NPO 協議会登録人材の活用承諾と協力が得られたことで、協議会、そして傘下の各 NPO との連携強化が構築されることになりました。この連携をバネに今後、ノウハウ会全体の事業拡大に向けて大きく進展させていきたいと願っています。

以上



## 中小企業緊急雇用安定助成活動と 泉大津支部活動状況

教育訓練部会 石田 進

### ●中小企業緊急雇用安定助成金について

平成21年2月6日に中小企業緊急雇用安定助成金の内容が大幅に見直されました。

対象は休業・教育訓練・出向でしたが、特に教育訓練手当と、休業補償手当と重複されての支給が可能となりました。

従い休業＋教育訓練の同時申請が併せて出来る事となり、休業による雇用調整面と従業員の教育面共に配慮が同時進行で出来る施策が実施されるようになりました。

ノウハウ会も当初プロジェクトチームを編成し、数度の調整を経てからこれらの支援事業に本格的に取り組んできました。

結果として、この緊急雇用安定助成を希望する企業の依頼を受けて、新たに私有のパソコンも準備し、更に現有のNPO法人ノウハウ会事務所を中小企業緊急雇用安定助成金の教育機関として行政の認定を取得して、緊急雇用安定助成支援を希望する企業から対象者5名の従業員を受け入れてパソコン基礎を対象とする教育支援事業をスタートさせました。

これがノウハウ会としての教育支援事業の発端となりましたが、この経験によってノウハウ会が教育訓練活動機関として大きく羽ばたく礎となったのでは、と感じています。

引続いて中小企業緊急雇用安定助成金休業等実施計画届 様式第1号の申請業務支援と中小企業緊急雇用安定助成金支給申請書 様式第5号の申請とその実施業務を支援していますが、企業側からもその効果を期待されるようになり、多くの企業の方々との連携が生れ、さらに相互の信頼関係も大きく前進して、昨年後半から「基金訓練」への事業支援活動へと結びついていくこととなって参りました。

今は対照が「緊急雇用安定助成」から「基金訓練支援事業」へと変わっていますが、中小企業緊急

雇用安定助成金の教育訓練は、現在も泉大津市で継続して実施しています。

### ●泉大津支部活動について

泉大津市新聞にも毎回掲載され2年間にわたって実施してきたワード、エクセルの地域密着型パソコン教室でしたが、市の教育委員会にあるパソコンのワード、エクセルのバージョンが2003型のレベルですので、労働政策課と話し合いで改めて2007型に入れ替え次第再開することになっています。

なお中小企業緊急雇用安定助成金については現在、泉大津市 UK株式会社様の教育訓練を継続して実施しています。

本支援は、休業手当と教育訓練手当の申請と教育の実施ですが、2年目に入っています。将来3年間で300日の実施日を完了させる予定で実施しています。

以上

## 基金訓練事業の経過と今後の展望

教育訓練部会 澤田 齊全

現下、ノウハウ会で実施している基金訓練事業の紹介から始めます。この事業は、国の雇用対策の一つとして、学校やNPO法人などの認可された訓練機関が、ハローワークへ求職の申し込みを行っている者に対して、職業訓練を行って就職へと結びつけようとする制度です。中央職業能力開発協会が、厚生労働省からの補助金で実施しており、全国で月に43,000名程度の受講生がおります（平成22年度の中央職業能力開発協会の予算書から）。

ノウハウ会では、昨年5月に当協会へ開校申請書を提出し、6月に「ノウハウ会研修センター」の名称で認定を得ました。事務所ビルの2階の部屋を教室として、8月より3か月の訓練を開始し、以後3か月ごとに認定を受け、今年5月から始まる訓練で、連続して4回目の認定を受けたこととなります。この訓練期間を終えると、ちょうど1年を経過します。

訓練の内容は、パソコンの技術の習得を中心として、実務に役立つ総務、経理、さらに職業人としての心構えを教える企業人講話、労働安全衛生からなっています。また、座学の訓練だけでなく、職業相談も実施しています。開校ごとに、7から8名の会員が、講義をしております。

毎日、9時30分から4時まで、6時限の科目が組み、3か月の単位で300時間もの訓練の時間があり、その間、受講生との進路の相談にも応じますので、基金訓練という名称ですが、教師と生徒という学校としての性格を色濃くもっています。

4月までに終了した受講生を加え、今までに延べ40数名の方々に訓練をしてきました。

まったくの手探りのなかからこの事業に取り組んでまいりましたが、理事長はじめ講師の方々の熱心な取り組みのなかで、国の定める目標をクリアしているのみならず、受講生からも期待以上の評価を寄せられ、講師一同、安堵と同時にやりがいを感じているところです。事実、受講生は、パソコン、簿記の検定試験で非常に高い合格率を勝

ち取っています。

通常、教育というものは、教え、教えられる者がお互いに理解し、信頼を得るためには相当な期間がかかります。

3か月という短い間に受講生に相当の評価を得ているとすれば、それは、ノウハウ会の社会経験豊富な講師によって出来ることであって、専門学校と言っても、雇用契約の講師では難しいのではないかと考えています。さらに訓練生が修了して後も、事務所に訪ねてきたり、修了生の同窓会に講師を誘ってくれたりしております。訓練によって人の輪が広がっています。

この訓練の将来は、国の予算しだいではありますが、これが、存続する限り求職者の支援として、厳しくとも継続していこうと、思いを新たにしております。

以上

## テクノフェローズの活動のこれから

テクノフェローズ 宮本 暢彦

この度の東北大震災は、リーマンショック後長引いていたデフレ傾向の経済情勢から、何とか立ち直りかけた矢先の大災害の襲来でした。

この災害は、震災と津波による自然の大災害に加えて併発した福島第一原発の人災事故なども引き起こし、三つ巴の災害となり、世界的にもかつてない程の大災害となりました。そしてこの災害は、日本の国民へ復興への大きな試練の課題を与えました。

一方、昨今の我国の経済情勢を伺いますと、様々な政治抗争の明け暮れの空白の間に、特に新興国の経済面での追い上げは益々激しさを増してきています。

この度の東北大震災に伴う復興への試練をも加わり、日本の経済面での未来像がなかなか描ききれない状況にあります。

今や「頑張れ日本！」コールが世界各国からまき起こってきています。

われわれ日本人は過去、様々な自然災害、人為災害などの計り知れぬ危機と困難に何度となく見舞われてきましたが、何とかそれらを乗り越えてきました。

この度の災害復興に、そして同時併発している経済競争に、何としても世界中の期待に応えるべくオールジャパンで結束して乗りきっていかなければならず、かくすれば必ず先は見えてくるものと信じています。

ところで昨年9月、我国の発展の原動力である「弛まぬ技術の開拓と伝承」に寄与する組織として専門技術集団「ノウハウ会テクノフェローズ」を希望者を募って立ち上げました。

その目的は、特に技術分野における知見、経験及び認識、あるいは課題処理能力など何としても埋没させることなく、活用させ次世代に伝承する事こそが、技術立国日本の生き残りを図る重要な要素であり、そして今後のノウハウ会の活動に課せられた使命でもあるという相互の理解からでした。

以降約半年の経過を経て、ささやかですがこの方面での幾つかの事業活動の経験もしてきました。結論的にこれまでの所感を述べますと、「この活動の重要性を再認識した」という事です。

即ち、企業側あるいは事業者側からは、技術上の問題点の適確なアドバイスを求められる機会があること、そして内容によってはさらに踏み込んでいくと問題点の中、深さなどが広がっていくケースがあり、問題点の発掘とその対応に支援の幅が拡大していくということ、などなど期待される以上の支援展開の場があることが経験されました。

然し一方、この方面での活動展開に伴う対策せねばならない様々な問題点もクローズアップされてきましたので、これからの具体策と今後の抱負などについて展望してみます。

### ① テクノフェローズメンバーの充実

現在のテクノフェローズメンバーのさらなる充実とコミュニケーションの場の提供を図っていくこと。

### ② 技術者集団ネットワークの構築

大阪府産業支援型NPO協議会及び所属のNPO団体、ならびにノウハウ会と過去連携してきた技術支援団体との連携を蜜にして、相互乗り入れ及びネットワークの構築など、さらなる協力体制の充実を図っていくこと。

### ③ 即応体制の構築

顧客側要望への即応体制の充実を図るため、営業含む事務局体制などのバックアップ体制の充実を図っていくこと。

### ④ 企業側窓口支援業務としての展開と活用

ノウハウ会テクノフェローズの活動展開は、産業支援型NPO活動窓口ともなり得るもので会活動の全体像を描きながら広く、深くその展開を図っていくこと。

以上

## 小さくともダイヤモンドのように 輝く店をつくる

豊中支部 赤城 秋夫

### 地域にただ一つだけの店舗 『オンリーワンの店 づくり』 支援・コーチングの概要

今回の未曾有の東日本大震災で日本が大きく変わると云われています。その変化はあらゆる分野で新しい価値観が生まれ、顧客ニーズの変化を生みだすと思われま

す。それらの環境変化は、既存の画一化された外食チェーン店の料理やサービスにも価値変化が求められます。

#### ◆新しい価値観を作る

では外食業界求められる新しい価値観とは、

1. 貴方の店はお客さま一人ひとりのニーズにどれだけ応えられていますか

2. 商品（料理、サービス、雰囲気、ロケーション等）と対比するより高い価値があるか

求められるのは、今その店が持っている価値は、お客さまにとってお値打ち度合いや品位を『値踏み』する基準が上がることを意味します。

それらの環境変化の中で、一方では疲弊が進む地域商店街の生き残りをかけた模索が続いています。

#### ◆競争店が存在しない地域で商い

ノウハウ会外食産業支援部会では、地域小規模飲食店に「小さくともダイヤモンドのように輝く店をつくる」をテーマに、地域で競争店が無い地域一番：オンリーワンの店創りに3つの機能を稼働させます。

1. 新しい価値を創造するイノベーション。

2. 売上高を創り出すマーケティング。

3. 利益を生み出すマネジメント。

以上の3つの歯車を連動させることで、継続してお客さまに「お値打ち」を提供していく店舗を目指します。

#### ◆料飲業界のイノベーションとは、

この激変の時、トップのイノベーション（革新）が無ければ、激変の渦に砕け散る運命になります。トップ自身が「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しいアイデア」で新たな価値を創造する意識革新が必要です。その為には、これまでの店舗側からの目線をお客さま側の目線に変えることです。それは、ターゲットするお客さまに、商品（料理・サービス。店舗）の新しい価値を創ることです。

#### ◆マーケティングとは「売れる仕組み」

お客さまに、強みを強化し、競合店に負けない商品群を作ることです。

まず、お客さまを「パンダ料理」で集め、「稼ぐ料理」で利益を確保し、四季の「旬」を織り込み、その特徴をお客さまに適切な価格で、サービスと販売促進にストーリー性を連動し、新しい価値を提供する。これらの一連のプロセスが「売れる仕組み」を創ります。

#### ◆マネジメントとは、

年間計画を作り、月間に落とし込み、週間で現場のお客さまとの接点の行動変化を起こす「仕掛け」を構築ことです。それにはマネジメントサイクルの「P・D・C・A」を「週間」「月間」「四半期」「半期」「年間」と稼働させ、店運営のマネジメントを強化することで、現場の店長、従業員の訓練と育成を行い、継続的に「地域一番・オンリーワン」店舗を維持発展させるシステムです。

以上のように、単に一過性の繁盛店を作るのではなく、長く地域の中でお客さまの支持を頂くことで、地域で「競争店の無い」オンリーワンを目指します。

ノウハウ会豊中支部 外食ビジネス企画

主宰 赤城秋夫

以上

## 非日常の時空へ

### 被災地を歩いて

テクノフェロー  
漆畑 訓明

東北地震によって保険会社は被災者への早期保険金の支払い義務が発生しています。

この為に被害状況を正確把握しなければなりません。3月15日に我家の電話が鳴り、その仕事の依頼で東北の被災者の家を訪問して被害状況の調査をする事になりました。

現地で接する被害の光景と被災への人々の対応は様々でした。

#### 1. 津波被害を受けた東松島の光景

①東松島には仙台から多賀城を通って行くのですが震災直後の駅周辺は津波で流された遺体が折り重なりその遺体に窃盗団が口に出すのも憚る行為をしていたとの事です。東松島に近づくにしたがい自衛隊員が2メートル位の棒をもち、隊を組んで辺り一面に広がった瓦礫（私には瓦礫に見えるのですが被災者にはアルバム、仏壇、通帳、肉親の遺体があるかもしれない聖なる場所）の下の遺体を捜している光景に出合います。

目的の流出した家跡で45歳位の男性と話をすることが出来ました。彼は突然、脈絡もなく「俺はなんで生き残ったのか。」とつぶやく。愛する子供や妻を失い、家の借金の支払いも終わらぬ前に家を津波に襲われたとの事です。自分が彼だったらとても、もう一度人生をやり直す気持ちにはなれません。唯その人の傍にいて話を聞いてあげる以外なすべき術は何もありませんでした。

②東松島への道は献身的な自衛隊の努力で私が被災地を廻る頃には道路上の瓦礫は片付けられていました。道路を車で走っていると、津波で屋根だけが地面に伏せられたように残され、地面から1.5メートル突き出た鬼瓦の上に小学2年位の男の子が馬乗り座って遠くの空を見えています。その光景を目にした時、直観的にその子が震災孤

児だと分りました。小学2年の時、父を亡くし母が苦勞して育ててくれた自分の姿が重なり言い知れぬ怒りがこみ上げてきました。

「国は、仲間はその子に何故手を差し伸べないのか。どうやってその子に生きろと言うのか！」と思わずドライバーに怒りをぶっつけると、「周りは皆その子を引き取ろうとしているが家族や思い出のあるあの場所を離れようとしなさい」との事です。我々周囲はその子に対してやれる事は限られた事しかできないのでしょうか。その子に今後待ち受ける困難を伴うかもしれない運命、私の場合は母が盾となって守ってくれた事を全てにあの子は一人で立ち向かい、克服していくしかないのだと気がついた時、更なる思いが募り、この光景が今も目に焼き付いて離れません。

③家が流出した時、津波に流されたが偶々立木に引っ掛かり奇跡的に救われた30歳前後の青年と流出した建物跡を確認しながら話をすることが出来ました。私が「貴方のような心身とも強く若い人は気持ちを切り替えて仙台に出れば幾らでも働く場所はある」と言うと言下に「自分は生き残った仲間とこの場所で海苔の養殖を復興させる。その為にも4月に予定していた結婚式も当分延期した。」との言葉を後に、駅前の仮の漁業組合事務所に入って行きました。この青年の言葉を聞くと何故か宮沢賢治の「雨にも負けず…」の詩を思い出しました。希望さえあればこの青年はどんな苦勞でも乗り越えていくでしょう。この青年の態度に青年を励ましたつもりで言った言動が如何に空虚で俗物になった己そのものであるかを感じ汗をかく思いでした。

#### 2. 被害の少なかった仙台市街の光景：

仙台市内は被害が余り大きくなかったので訪問は津波で襲われた地区の後になりました。津波地区は私に生きていく事の根源的な事を問いかけをしてくれましたが、仙台市街被災地の訪問は生き残りホッとした人が再度芽生え始める現世に対する欲心への対応で様々な人の心模様がみえた地区でした。

①5、6人の子供達が走り廻る家を訪問した時、御主人は35歳位の保育士さんその人と話が出来

ました。職業柄子供好きで沢山子供をつくったのかなと、思って聞くと、震災孤児になった子供を引き取って自分の子供と一緒に育てているとの事。私が見ているとどの子が自分の子でどの子が震災孤児なのか分らないくらい楽しそうに大声をあげて遊んでいます。

他人の子を引取る事に気負う事なく淡淡と人として為すべき事をしている姿に教育者の真髄を見た気がしました。

②市内の一等地の大邸宅のプザーを押すと美人の奥さんがでてきて応接室に案内される。ソファに、35歳位の社長がいて挨拶のあと早速被害状況のヒヤリングを始めた時です。挨拶をしながら鞆からお見舞いの手拭を出して渡した時「何故、手拭を片手で渡すのか！手拭は両手を揃えて出すものだろう！」と立ち上がりざま罵声を浴びせませ、私が無作法を詫びても声を荒げて治まらず、最後にはソファを1Mぐらいの蹴り飛ばしたので、これ以上此処いても無駄だと帰りました。これが財と名誉を得た手口なのでしょう。圧力をかける事で何の被害もない建物に大きな被害判定を出させて多額の保険金を取ろうという魂胆が見え見えで、心の中で「この社長見え透いた猿芝居をしているな」と分っていてもお客には勝つことはできません。

こんな男は分りやすいのですが中には、ニコニコ笑顔で黙ってお金を差し出す人もいます。あらゆる事を金儲けのツルと考えている逞しさには人間の闇をみる思いです。前者と後者共表現の違いがあるだけで同じ部類の人間なのでしょう。

また震災で経済的に窮地に立ってしまったアパート経営の女社長は私の判定を覆そうと「何度言っても駄目だ！」と言うのを「そこを何とかお願いします。」の一点張りで二時間近く追い回されて困った事がありました。

同じように震災で貸しアパートをもって被害を被ったインテリの写真家は経済的に相当困窮しているのにも拘わらず理路整然たる私の説明に素直に頷き、聞き従おうとするのです。隣の部屋で聞いていた奥さんが堪らずに「貴方！本当にそれで良いのですか？」との声がかかった。本当に困ると前述した女社長のように必死さが態度に出てその

気迫に押されて、気迫に負けそうになるのですがこのインテリ写真家には其れがありません。理屈さえ正しければ子供や妻が犠牲になっても平然とそれを受け入れるのだろうかと気になりました。保険金の支払高を廻った人間模様ですが、やはり「金は人を生かしても殺しもする大事なものだ」と言う事がこの年でやっと分ったような気がしました。

### 3. 被災地での活動が終わろうとしている今思うこと

被災地での作業が終わろうとしている今、非日常の世界から日常的な仕事に戻っていくのですが、色々な事が頭の中を駆け巡ります。

出発時に突然東京の息子が私の所に来て「ボランティア気分でのだろうか、被災地がどんな状況になっているか本当に分っているのか。そんな歳で後先見ずによく行く気になったものだ。かえって皆に迷惑がかかるから止めろ。」強い口調の中に私の健康を気遣う気持ちが見えるので心で感謝しての仙台入りでした。

仙台での生活は息子の言うように一流ホテルでもガスがなく、暖房、風呂もなく薄い毛布にくるまり、ウイスキーのがぶ飲みで暖をとる寝る。時々ホロ酔いになった時に大きな余震が襲いベッドが部屋の中をグルグル回りだす。こんな状況下での仙台生活が始まりでした。朝6時起床、水でシャワー、昼は品数の少ないコンビニでパンと野菜ジュース、22時過ぎ仕事を終え、居酒屋で酒を飲みながら食事。この繰り返し。そんな中でも仙台市内の震災復興は着実に進み、5月の連休に青葉城を横切ると新緑の中に東北大学の遅れた入学式に参加する多くの希望に輝く新入生の顔を見た。東北にも本当の春がくるのも近いと確信できました。

また私にとって震災地の訪問は日頃忘れていた本当の生きる事の根源的な問いかけや、名もない人の本人でさえ気がつかない小さいが偉大な行為をまじかに見ることができた事は自分自身が勇気づけられました。恵まれ過ぎる環境の中にいてさえ、恥と思わず欲望の追求に突進する逞しい姿にある意味で感動もしました。

今後とも東北には多くのボランティアが必要だと思えますがボランティアで得るものはボランティアを受ける側の人よりも、する人達の側にあるのではと思いました。また我々の住んでいる所で東北と同じ事が起きるかも分かりません。そのような非日常的な事態に直面した人間が咄嗟に対応する行動はやはり日常時に養われた心の延長であるように思われました。

## 「七夕伝説」について

古東 正敏

### ☆はじめに

昨年6月、小惑星探査機「はやぶさ」が60億キロメートル、7年間に及び宇宙の旅を終えて地球に帰還しました。「はやぶさ」の任務は「イトカワ」という名の小惑星に向かい、表面の岩石の破片を採取して地球に持ち帰ることでした。その快挙は記憶に新しい。そして今日、宇宙飛行士が宇宙を遊泳する時代にもなりました。

ここに「七夕伝説」を紹介し、次代に歴史のロマンや心の豊かさを伝えていくことは価値のあることだと思ひ、好奇心から七夕由来の歴史を探ってみることにいたしました。

過って、日本人女性初の宇宙飛行士向井千秋さんは、スペースシャトルから帰還した際、宇宙から見る星は宝石のように魅力的に輝き、天の川をはじめ星の数の多さに驚き、感動し、科学技術を持つ我々は「科学」と「人間」そして「自然」との共存を常に考えていくことが重要だと語っておられます。

現代の文明社会でも、宇宙の神秘やロマンを今なお、追い求めていることを思えば、大昔の人々は、天体を眺めることで、月や星が持つ独特な清らかさに自分の心を同化させ、そこに遠大な夢とロマンを見出したのではないかと思われまふ。

### ☆七夕の行事

七夕は七月七日の夜、天の川に隔てられた彦星と織姫が、年に一度だけ会うという伝説にちなむ年中行事、五節句のひとつであります。

七夕行事は、もともと中国から伝来し奈良時代に広まった「牽牛星」と「織女星」の伝説と、手芸や芸能の上達を祈願する中国の習俗「きこうでん」が結び付けられ、日本固有の行事となったといわれております。

七夕は、宮中では「しちせき」と呼ばれていたが、後に「たなばた」と呼ばれるようになりました。

七夕が「たなばた」と呼ばれるようになった由来は、織女の伝説を元にした語源説で、「棚機つ女（たなばたつめ）」とする説が一般的であります。

しかし、古くから農村地域では、豊作を祈り種をまく「たなばたまつり」が存在しているため、宮中で行われた「しちせき」が民間に広まった時に混同され、「たなばた」と呼ばれるようになったとも伝えられています。

### ☆七夕伝説

七夕伝説は、遣唐使などによって中国からもたらされ、日本に古来からあった「たなばたつめ」の信仰とが混ざって出来たとされていますが、その他にも琉球地方には羽衣伝説などと混ざった形で七夕伝説が伝承されております。

江戸時代には書道学問の上達を願う行事となり短冊に、いろいろな願い事を書く風習が広まったといわれております。また、織姫星と彦星を引き合わせるため、たらいに水を張り、そこに二つの星を反射させてわざとたらいをゆらし、二つの星があたかもくっついたようにすることも行われました。

### ☆織女牽牛の星伝説

むかしむかし、天帝という神様が星空を支配していたころ、天の川の西の岸に、織女という天帝の娘が住んでおり、織女は機織が大変上手で、彼女の織った布は雲錦と呼ばれ、色も柄も美しく、丈夫で着心地もよく、素晴らしいものでした。

一方、天の川の東の岸には、牛飼いの青年が住んでおり、毎日、天の川で牛を洗い、おいしい草を食べさせたり、よく牛の面倒を見る働き者でした。

天帝は、くる日もくる日も、働いてばかりいる娘を心配して、娘の結婚相手を探す事にし、天の川の向こう岸に住む牽牛をみつけて、二人を引き

合わせました。

「おまえたち二人は、まじめによく働く。わしの娘、織女とめおとにならぬか」

牽牛は恐縮したようすで「夢のようなお話でございます。有り難くお受けさせていただきます」織女も、働き者の牽牛を大変気に入り、めでたく夫婦になりました。

ところが、一緒に暮らすようになると、二人はあまりにも仲がよく、朝から晩まで天の川のほとりでお喋りするばかりです。

これを見た天帝は「そろそろ仕事を始めたらどうか」と戒めますが、「はい、明日からやります」と答えるばかりで、いつになっても仕事を始める様子がありません。

織女が布を織らなくなったため、天界にはいつになっても新しい布が届きません。また、牽牛が世話をしていた牛たちも、やせ細って、次々に倒れてしまいました。

業を煮やした天帝はとうとう、二人を引き離し、一年に一度、7月7日の夜だけ、天の川を渡って、会うことを許しました。

今でも二人は、7月7日に会えるのを楽しみにして、天の川の兩岸でまただいているということです。

#### 【七夕伝説のふるさと】

**交野が原** 枚方市と交野市一帯は、古くは「交野が原」と呼ばれ、七夕伝説発祥の地と伝えられています。1600年もの昔に渡来人たちが、はたおりの技術や様々な大陸文化と共に、七月七日の夜、織姫と牽牛の彦星が年に一度の逢瀬を楽しむという伝説をこの地に広めました。

**大阪の天満**は、“天に星満つる地”が由来で、天神祭はその昔、七夕の日を始まりとしており、今日、天満宮では七夕の故事を今に伝える「星愛七夕まつり」が行われています。

#### ☆古典文学の「天の川」

- ・狩り暮らし織女（たなばたつめ）に宿からむ

天の河原にわれは来にけり

在原 業平

- ・七夕は思い知らなん天の川  
急ぐ渡しに舟を貸しつる

津守 国助(新後拾遺集)

- ・天の川秋の一夜の契りだに

交野の鹿の音をや聞くらん

藤原 家隆(古今集)

#### ☆七夕の笹飾りと短冊

笹飾りは、大昔から農作物の「虫除け」などを祈って、田畑の四方に短冊（たんざく）などを青竹や枝付きの葉竹に飾りつけ立てられていたものです。後に、これが七夕飾りとして利用されるようになり、現在、何処にでも見られる笹飾りは、江戸時代の終わり頃からのものです。

そして、短冊は中国の五行説から、赤、青、黄、白、黒の五色で飾られます。その後、黒色は高貴な色としての紫に変わりましたが、願い事を書く風習は、同様に書道の上達も願って書かれたものであります。

このように七夕の笹飾りは、もともと農作物の「五穀豊穰」を願って飾られたたものでありますが、短冊に夢や希望の願い事を託して祈った風習は、今日、七夕祭りとして全国各地に残っております。

「七夕笹飾り」が、これからも日本人の夢とロマンを叶える願い事として、また、よき日本の風習として、後世に永く伝えられてゆくことを願ってやみません。

#### なんか妖怪（「水木しげるロード」散策記）

兵藤 幸治

テレビドラマ氷河期中、昨年（2010年）の上半期にNHKの朝ドラで人気となった「ゲゲゲの女房」は、思い起こせば青春時代に熱中した漫画週刊誌「少年マガジン」の連載漫画「墓場の鬼太郎」の作者「水木しげる」の奥さんを主人公とした物語でした。ドラマの中では、忘れていた懐かしい「貸本屋」という商売も出てきて、「水木しげる」の世界を通して、青春時代の「昭和」を髣髴させてくれました。おそらく、それが視聴率に反映したのではないかと思われ、時間変更で8時からになったことも幸いして、半年間、毎朝テレビ



ビにかじりついた人も多かったと思います。後に「墓場の鬼太郎」から「ゲゲゲの鬼太郎」になった経緯も、ドラマの中で初めて知りましたが、作者の名前の「しげる」が訛って「ゲゲゲ」だったとは思いませんでした。そんな懐かしさから、「ゲゲゲのふる里」境港に、年末の大雪に見舞われる前に散策に行きました。地域振興策の一環として、境港の駅から「水木しげるロード」なるものが設定されていて、139体の「妖怪」たちが迎えてくれます。「なんか妖怪？」と・・・。「ゲゲゲの女房」は「一反木綿」とあだ名され、一反ほどの白い布で、夜中に飛来し、人の首に巻きついたり、顔面を覆って息の根を止めたりするそうです。鹿児島県大隈地方に由来する妖怪で、スリムで色白になる効果があるとの事です。ここでは、小山の後ろから、ニューっと顔を出して、世間を伺っているようです。

大阪から境港に行くには、米子まで高速バスを使うと、お安く早くいけます。米子からは、JR線で境港まで妖怪列車で向かいます。何の変哲もない車窓の風景を見ながら、気持ちの持ち方次第ですが、チョット妖気（陽気ではありません）な気分になります。全部の列車が妖怪列車ではありません。米子の駅で「鬼太郎列車」という名の特別の時刻表がありますので、それを確認して乗って下さい。



境港の駅では、観光案内所に寄り、「妖怪ガイドブック」を購入して童心にかえりスタンプラリーに参加しましょう。偶然居合わせた知らない子供たちと、競ってスタンプラリーをするのもいいものです。完走すると「妖怪スタンプラリー完走証」なるものがいただけます。えっ？「そんなものは

要らない！」って



「水木しげるロード」の途中に「妖怪神社」があり、入り口では「目玉おやじ」が水の流れを利用して回転しながら、全身全霊で歓迎してくれます。子供や若い人たちは、何やらお参り（願掛け？）をしているようですが、無信心な私には、観光スポットのひとつ以外の何物でもありません・・・。



でも「目玉おやじ」の回転スピードが速く、目玉が出る瞬間とシャッターチャンスのタイミングが、なかなか難しく、実は掲載した写真は5枚目の写真なのです。

「水木しげるロード」の途中にはタクシーの営業所があり、車のテッペンには「目玉おやじ」を載せています。「鬼太郎タクシー」と称するこの看板タクシー会社のように、折角ですから、妖気な気分一度乗ってみたいものですが、タクシーで散策するところでもなさそうで、今度、港の市場にでもゆく時間があるときに乗ってみようかとも思います。



でも、もう境港に来る機会もないような気がしますが・・・。

旅の楽しみのひとつが食べ物にあると思います。港町ですので、さぞや美味しいものがあると思い、地元の人に聞きましたが、今ひとつ良いアドバイ

スをいただけませんでした。



なかでも人気なのが「鬼太郎ラーメン」のようですが、「何で港町でラーメンなの？」と疑念を抱きながらもお店に入りました。ラーメンに鯖の刺身が入っていて 750 円也で、味は普通で、何で名物なのか今ひとつ理解に苦しみました。折角「ゲゲゲのふる里」に来たのですから、昭和の思い出を懐かしむのと同時に、その歴史を振り返り、勉強してみようと「水木しげる記念館」にもお邪魔しました。勿論、有料の施設ですが、当時は何気なく見ていた水木漫画ですが、改めて、古き良き昭和の時代に浸ることができました。「貧しくても、いつかは・・・」と志を高くして夢を追いかけることを忘れなかった、右肩上がりであり当たり前の時代で、今の若い人たちには理解できない世相だったのではないのでしょうか・・・。

「水木しげるロード」の一番奥に、見つけました、とっておきのお土産です。

チョット怪しげな間口2間ほどの小屋のような「妖怪食品研究所」というところで店頭販売している限定販売商品で、まさに目玉商品のお土産「妖菓・目玉おやじ」です。蜜づけの栗を練りこみ、



こしあんを練りきりで包み、赤・黒・白の瞳を羊羹でつくり表面を寒天でコーティングしているとの事です。松江にある創業 130 年の老舗の茶菓子処「彩雲堂」の和菓子職人の熟練技によるものようです。上品な味わいは観光土産の域を超え、妖怪系菓子の最高峰と自負して販売していました。

「目出たい」お菓子として、不死身の「目玉おやじ」にあやかり不老長寿を念じるお菓子としても人気のようです。勿論買いました、2個で 700 円也で、思わずお姉さんに言いました、「これ、ひとつで350円なの？チョット高くない？」と・・・。お姉さんは苦笑いでした・・・。

大阪の街中ではシングルベルが流れ、心なしか忙しい師走に、チョット知らない土地を歩いてみようと思立ったのも、未来に向け突き進むことしか頭になかった昭和の良き時代を懐かしむのも、それだけ今が世知辛いのかも知れませんが、目先の利益に血走りになる昨今に嫌気が差しているのかもしれない。気分を変えて知らない町を歩くのは、高い目標設定と目先の小さな目標とのバランス感覚の中で、心の豊かさとは何かを問いながら、日々暮らすことの意義を見つめ直す、良い機会だと思っています。その動機は、何かトレンド性が必要なのかもしれません、忙殺されている時間の流れの中で踏みとどまり、境港で「何か妖怪？」と迎えてくれた妖怪たちに、心の豊かさとは何かを問われている気がしています。

## 論理パズル 3 題

中村 隆次

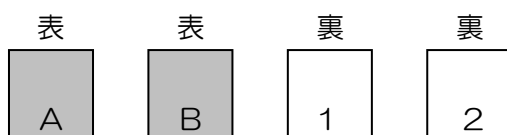
ISO14001 の報告書に接する機会があり、その報告書の構造を見てみると、使用する「言葉の定義」に続き、「規格要求事項」に基づいて環境に対する考え方とその計画・実践内容・結果に対する考察が論理的に述べられている。「規格要求事項」とは ISO の実践にあたってその実施すべき内容を論理的に組み立て、報告をそれに基づいて行なうための規範ともいうべきものである。

ISO だけでなく、欧米の科学は全て論理的な構造で組み立てられ、進化してきたものであろう。その起こりはギリシャのアリストテレスに始まり最初の実践はユークリッドの「幾何学原論」ではないかと言われている。「幾何学原論」では「定義」に始まり、これだけは話しの前提として認めようという「公理・公準」と続き、そこから先は論理的展開である「定理」が続くという構造を持っている。それぞれの定理の証明には「公理・公準」とそれまでに証明された定理以外には何も用いないという原則が守られている。そしてこれらの構造的な積み重ねで幾何学全体の体系が出来上がっている。この論理の進め方は他の科学でも ISO の推進においても同じなのである。この欧米の科学における論理的な構造はギリシャ以来の長い歴史の所産とも言うべきものであろう。

したがって遊びの世界においても、欧米のパズルについての造詣はないが、日本の頓智とちがって論理パズルが多いように思う。今回は過去に読んだ論理パズルを 3 題紹介します。眠れない夜の睡眠薬代わりに考えてみてください。催眠効果は抜群ですし、習慣性がないので安心です。

### その 1

図のようにカードが 4 枚あります。表にアルファベット、裏に数字が書いてあります。2 枚は表、後の 2 枚は裏向きになっています。そして「A の裏は 1 である」というルールで作られているのですが、このルールの真偽を確かめるためにはどのカードをめくればよいでしょうか。



次に「1 の表は A である」というルールで作られているとした場合、ルールの真偽を確かめるためにめくるカードは先の場合と同じでしょうか。

### その 2

弁論術の先生が彼の弟子の一人と契約を結んだ。もしその弟子が最初の訴訟で勝たなかったら、彼は授業料を支払う必要がないというのがその契約であった。ギリシャ時代の弁論術は論争のために学ばれた。論争の中でも特に重要であるのが裁判である。裁判官の前で被告と原告が論争して相手を論破した方が勝つというのが裁判の仕組みである。この弁論術の先生と彼の弟子との授業契約はどうなったのか。授業はすべて終わった。先生の方は弟子に授業料を請求する訴訟を起こした。

弟子は次のような論証で自分を弁護した。わたしはこの訴訟に勝つか負けるかのどちらかである。もし、私がこの訴訟に勝てば、私は先生に授業料を払う必要はない。(先生は授業料請求の訴訟に負けたのだから) もし私がこの訴訟に負ければ、私は先生に授業料を払う必要はない。(先生との契約に基づいて) したがって、いずれにしても私は先生に授業料を支払う必要はない。

先生は次のような弁護を行なった。私はこの訴訟に勝つか負けるかのどちらかである。もし私がこの訴訟に勝てば、弟子は私に授業料を支払わねばならない。(私は授業料請求の訴訟に勝ったのだから) もし、私がこの訴訟に負けても弟子は私に授業料を支払わねばならない。(彼は最初の訴訟に勝ったのだから) したがって、いずれにしても弟子は私に授業料を支払わねばならない。ギリシャ時代にあつたらしいこのジレンマのおはなしをどう考えますか。

(小室直樹「数学嫌いな人のための数学」より)

### その 3

40 人の貴族と従者

時は中世。ところはヨーロッパの某小国。仲の悪い 40 人の貴族がそれぞれひとりずつの従者と暮らしていた。ところがその従者どもがそろいもそろって悪いやつで主人に隠れてこそこそ悪いことをやっていた。どの貴族も他の貴族の従者どもが

悪者であることは知っていたが、お互いに仲が悪いので、それを教えてやろうとはしなかった。ところが自分の従者が悪事を働いていることは誰も知らなかった。

従者たちはずる賢くて、自分の主人にだけはバレないように工夫をしていたのである。

この様子を見かねた王様はある日、40人の貴族を呼び集めてこう言った。

「諸君は他人の従者のことはよく知っているのに、自分の従者のことはよく分かっていないな。よいか諸君の従者のうち、**少なくとも一人は悪者じゃ**。主人たる者は自分の従者が悪者だと分かったら、**即刻首を刎ねよ**。この始末を誤った者は自分の首を失うことになるぞよ。」

貴族達は青くなって、王様に猶予を乞うた。そしてこの日を第1日として、第40日まで考えることを許された。

さて、それぞれの家に帰った貴族達は考えた。

「王様は嘘をつかない。実際、よその従者はみんな悪者ばかりなのに、肝心のおれの従者が悪者かどうかおれにはさっぱり分からんからなあ。王様のはなしだと他の奴らも同様らしい。ということは他の奴らに聞けばおれの従者のことは分かるはずだが、とって他の奴らに聞くぐらいなら死んだほうがましだ。さて、どうしたものかなあ。」

ところでこの国はたいへん文化程度の高い国で「中央新聞」という日刊新聞が発行されていた(朝刊のみで、夕刊も号外もない)。土地のニュースは猫のお産から馬の葬式まで、細部にわたって報じられていた。貴族の家には毎朝無料で配達されるので、他の貴族がどうかしたかと目を皿のようにして読むのだが、いたって平穏無事で誰それが従者の首を刎ねたというような話はちっとも載らない。従者たちは身の危険を感じていたっておとなしく、乗合馬車の中でも、足を投げ出したりしないで、荷物をきちんとひざの上におく、というほどであった。

こうして平穏な39日が過ぎた。第40日目の朝の新聞にも特に変わったことはなく、ありふれた婚約記事や広告などで埋まっていた。

新聞を読み終えた貴族は静かに立ち上がり、従者を呼び、首を刎ねた。こうして40人の従者の首

が一斉に飛んだのであります。

40日目の朝刊を読み終えたときにどうして自分の従者も悪者だと分かったのでありましょか。論理的に解明してください。

(野崎昭弘「詭弁論理学」より)